

FY2021 Operational Plan

The Japan Foundation for the United Nations University

【基本方針】【Basic Guidelines】

国際連合大学（以下「国連大学」又は「UNU」）は、1975年に創設され、国連大学憲章において「人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究」をその仕事とされている。それゆえに国連大学は、国連及び関係機関に対し、革新的な政策の選択肢を支える客観的で偏りのないエビデンス（学術的根拠）に基づく「中立的なナレッジ・ブローカー（知識の仲介者）」としての役割を果たしている。

このことから、国連大学の実施するプログラムは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と密接に連携し、17の持続可能な開発目標（SDGs）のすべての範囲と一致し、それらを網羅している。国連大学は、世界5大陸に広がる14カ所の研究所とプログラムに、600名以上の研究者とサポートスタッフを擁し、学術的な取り組みに基づく解決策を見出し、国連システムと国連加盟国がSDGsに掲げられているターゲットを実現するための実際的な政策を提言している。

また、国連大学は独自の教育コースやプログラムを幅広く提供している。分野横断的な問題に力を入れ、今後発生する問題や課題に効果的に対処するために必要な知識や技術を未来のリーダーが身に付けるサポートをし、大学院学位（修士および博士）を授与するコース、専門分野における科目等履修プログラムやコース、ワークショップを実施し、さらに若手研究者が国連大学の政策専門家と共に働きながら学べる機会も提供している。

国連大学の大学院学位プログラムは、開発途上国の若手研究者および学者の能力向上、ならびに地域の大学および研究機関とのパートナーシップ強化を目的とし、現在、国連大学物質フラックス・資源統合管理研究所（UNU-FLORES、ドイツ・ドレスデン）、国連大学マーストリヒト技術革新・経済社会研究所（UNU-MERIT、オランダ・マーストリヒト）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS、日本・東京）、国連大学環境・人間の安全保障研究所（UNU-EHS、ドイツ・ボン）の4研究所に設置されている。

UNU-IASの大学院プログラムは、2020年8月までに、博士号取得者を13名、修士号取得者を83名輩出した。また2013年より開始された東京大学とのジョイント・ディプロマ・プログラムにおいては、2020年9月までに41名の学生にジョイント・ディプロマが授与され、2017年に開始された上智大学とのジョイント・ディプロマ・プログラムにおいては、2020年8月までに12名の学生にジョイント・ディプロマが授与された。入学応募状況も定着し2020年には修士課程に204名の応募があり10名を入学させ、博士課程には234名の応募があり7名を入学させた。

本法人は、国連大学憲章の精神を踏まえて国連大学の活動を支援することを目的としており、UNU-IASが日本・東京にあることから、従前よりUNU-IASの教育・研究活動を支援してきたが、2010年の同大学院プログラムの創設時より、わが国の経済界及び有志の協力を得て、UNU-IAS大学院学生を支援するための奨学金をスタートさせた。同大学院の卒業生の多くは国際機関の研究プロジェクトや開発途上国の政府活動に参画しており、同大学院の人材育成目標にかなった活動を見せ始めている。また、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大する中でも充実した教育を実施した。

そこで、本法人の2021年度の事業活動は、新型コロナウイルス感染症の動向を見極めつつ、国連大学の活動に対する我が国国民の関心を一層高め、東京にあるUNU-IAS大学院学生への奨学金支援を継続するとともにUNU-IASの研究・研修の諸活動を支援し、本法人の公益事業のさらなる活性化を図ることを基本方針とする。

The United Nations University (UNU) was established in 1975 by the United Nations (UN) and the UNU Charter mandates the University to devote its work to “research into the pressing global problems of human survival, development and welfare”. Therefore, UNU fulfil its role as a “neutral knowledge broker” that can provide an objective, impartial evidence base to support innovative policy options for the UN and related organizations.

For this reason, the UNU programmes align closely with the 2030 Agenda for Sustainable Development, adopted by the United Nations in 2015, and generally encompass the full range of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs). UNU has more than 600 researchers and support personnel, working in 14 institutes and programmes on five continents. They are developing solutions based on academic efforts and advocating realistic policies that will enable the UN system and UN Member States to reach the targets encapsulated in the SDGs.

UNU also offers a range of unique educational courses and programmes. These focus on cross-cutting issues and help equip the leaders of tomorrow with the knowledge and techniques that they will need to effectively address emerging problems and challenges. UNU awards postgraduate (master’s and doctoral) degrees; organises specialized non-degree programmes, courses, and workshops; and provides opportunities through which young researchers can work alongside, and learn from, policy experts.

The UNU’s postgraduate degree programmes aim to enhance the capacity of young researchers and academics from developing countries, as well as strengthen partnerships with local universities and research institutions. Today, the programmes are established at the following four research institutions: The UNU Institute for Integrated Management of Material Fluxes and of Resources (UNU-FLORES), Dresden, Germany; The UNU Maastricht Economic and Social Research Institute on Innovation and Technology (UNU-MERIT), Maastricht, Netherlands; The UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS), Tokyo, Japan; and The UNU Institute for Environment and Human Security (UNU-EHS), Bonn, Germany.

By August 2020, the UNU-IAS postgraduate programmes had awarded doctoral degrees to 13 students and master’s degrees to 83 students. In addition, a joint diploma had been awarded to 41 students by September 2020 in the joint diploma programme launched in 2013 in cooperation with the University of Tokyo and a joint diploma had been awarded to 12 students by August 2020 in the joint diploma programme launched in 2017 in cooperation with Sophia University. Also, the University’s flow of applications and admissions is now stable. In 2020, there were 204 applications for the master's programme and 10 students were admitted, and 234 applications for the doctoral programme and 7 students were admitted.

The purpose of The Japan Foundation for the United Nations University is to support the activities of UNU in light of the spirit of the UNU Charter. Since UNU-IAS is located in Tokyo, Japan, we have been supporting its educational and research activities. When the UNU-IAS postgraduate programmes were created in 2010, we launched a scholarship programme to support students in the programme with the cooperation of the Japanese business community and volunteers. Although many of the graduates from UNU-IAS postgraduate programme are beginning to demonstrate the kinds of activities that meet the programme's human resource development goals, as they are participating in research projects of international organizations and government activities in developing countries. In 2020, despite the spread of the Novel Coronavirus (COVID-19), the UNU-IAS postgraduate programmes maintained the well-developed education.

Therefore, the basic policies for our activities for FY2021 will be to further raise Japanese people's interest in the UNU activities, continue to provide scholarship support to students in the UNU-IAS postgraduate programmes in Tokyo, support research and training activities of UNU-IAS, and further revitalize our public benefit services with a conscious awareness of COVID-19.

【事業計画】【Operational Plan】

I. 国連大学の活動への理解と支援を高めるための広報・キャンペーン

[Outreach Campaign on UNU's Activities]

広く国民に、国連大学の実施する人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究及びそれにかかる教育・研修状況について周知させるとともに、それらの活動への理解と支援を高めるために広報・キャンペーンを行う。

特に、国連大学大学院の大学院生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、強力に広報活動を展開する。

1. 広報資料の作成 [Promotional Materials]

(1) ニュースレター（継続事業） [Newsletters] (On-going Mission)

国連大学の研究者や短期コース受講生、大学院生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らしてきた。特に大学院についてはカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなども掲載してきたが、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えることを目指す。

(2) 各種パンフレット（継続事業） [Brochures] (On-going Mission)

本法人の活動概要や国連大学の活動概要を分かりやすく解説したパンフレット等の充実を図る。

2. インターネットによるキャンペーン [Campaigns through Internet]

(1) Web 活用による広報の拡充（継続事業） [Updating of Website] (On-going Mission)

国連大学 IT 担当部署（C3:Campus Computing Center）の協力を得てリニューアルした本法人のウェブサイト（Web Site）のコンテンツを充実し、よりわかりやすい情報発信を展開する。Web Site による広報の他、Twitter、Facebook、Instagram の充実を図るとともに、YouTube の活用を検討する。また、国連大学および国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）の広報担当との連携を強化し、国連大学の活動内容をより広範に紹介し、イベント情報の積極的な告知や記事の紹介を行うことを目指す。さらに、本法人独自のコンテンツの充実も試みる。

(2) メールマガジン（継続事業） [E-mail magazine] (On-going Mission)

賛助会員、国連大学や国連大学協力会の情報を直接的に希望する人々に、国連大学および国連大学協力会の様々なイベント案内を中心とした広報を展開する。

3. 若年層への広報活動（継続事業） [Outreach to Young people] (On-going Mission)

近年、中学生・高等学校生・大学生の間で地球規模課題、特に SDGs への関心が高まり、また、各学校における国際化教育推進が広がってきた機運をとらえ、これらの若年層の人々の国連大学見学会を積極的に支援し、若い人々の国連大学及び国際問題への理解と関心を高めるための広報活動を重視する。また、Web の活用についても検討する。

4. ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

[Outreach to the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)

地域の各ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努め、国連大学の活動を幅広く広報する。

II. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等 [Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions for the Global Issues]

国連大学の活動について人々の理解と支援を高めるため、国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題の解決のための講演会やシンポジウム・セミナーなどを継続的に開催してきたが、2021年度においても、これを継続する。特に若年層の育成に資するための講演会やセミナー、シンポジウムを行う。

1. セミナー・シンポジウム(継続事業) [Seminars and Symposium] (On-going Mission)

地球規模課題への取り組みについて、講演者相互の意見交換によるパネルディスカッションや参加者との討議が組み込まれたシンポジウムを継続的に実施しているが、2021年は「国連大学グローバル・セミナー湘南」を共催する。

2. 講演会等 [Lectures, etc.]

説話者のレクチャーを中心として、地球規模課題の知識の普及や理解の促進を図るもので、主として、幅広い国民層を対象に、緊急の地球課題について国連大学の修了生や大学院生を招き、国連の現場での経験や研究活動に基づく講演会等を実施する。

(1) UNU Alumni Caféの開催 (継続事業) [UNU Alumni Café] (On-going Mission)

国連大学大学院及び短期研修コースの修了生を招き、彼らが今どのような挑戦をしているかをもとに参加者と意見交換をし、国連及び世界が今抱えている地球規模の課題への共通理解を深める。本法人が修了生たちの同窓会の事務運営を引き受けていることもあり、国連大学修了生の活躍を広く知ってもらおうとともに、国連大学への関心を高める機会とする。

(2) SDGs×Leaders Café@UNU (継続事業) [SDGs×Leaders Café @UNU]

(On-going Mission)

本法人賛助会員等を講師に招き、SDGsに焦点を当てた講演会を実施する。

III. 国連大学への助成活動 [Grants for the United Nations University]

本法人の主目的が国連大学が行う諸活動について必要な援助・協力を行うことであることから、国連大学への助成活動は最も基本的な活動である。国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に関して助成を行う。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要なとする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行うこととする。

1. 教育活動への助成 [Grants for UNU Capacity Development Programmes]

国連大学の教育活動は地球規模課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若き人材の育成を目的としている。大学院教育と短期研修活動とへの支援を行う。

(1) 国連大学大学院「サステナビリティ学研究所」の大学院生奨学金助成 (継続事業) [Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

国連大学の実施する大学院プログラムのうち、日本・東京にあるサステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)の実施する大学院プログラム(サステナビリティ学修士課程及び同博士課程)の大学院学生に対し奨学金を助成する。日本において安心して勉学と研究活動に専念できるよう、修学環境を確保する観点から、同大学院プログラム創設時(2010年)より継続的に助成している。2021年度も引き続き助成する。特に開発途上国からの学生への支援を重視する。

(2) UNU-IAS の実施する短期研修への助成 (継続事業)

[Grants for Short-term Seminar by UNU-IAS] (On-going Mission)

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) が行っている短期研修に助成する。特に「**国連大学グローバル・セミナー**」[UNU Global Seminar in Japan] は活動の歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持っている。宿泊研修を原則とし、日本の若者も多く参加することから、国際相互理解の意義が高く、従前より継続的に助成してきた。2021 年度も継続して助成する。

(3) その他の教育事業への助成(継続事業)

[Grants for the Other Capacity Development Programmes] (Ongoing Mission)

その他、国連大学との協議により必要とされる教育事業に助成する。

2. 国連大学の教育研究環境整備のための助成

[Grants for Maintenance of UNU Educational and Research Environment]

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球的な課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成する。

(1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 (継続事業)

[Maintenance of UNU Educational and Research Facilities] (On-Going Mission)

(2) 国連大学図書館の蔵書購入費 (継続事業)

[Purchasing Books for UNU Library] (On-Going Mission)

3. 研究活動への助成 (継続事業)

[Grants for UNU Research Projects] (On-going Mission)

国連大学の研究成果は国連機関や世界の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への助成を行うものである。日本国内に設置されている研究所の行う研究活動を重視し、必要な研究活動に対し必要に応じて助成する。

4. その他の国連大学事業への助成(継続事業)

[Grants for the Other UNU Projects] (On-Going Mission)

その他、国連大学との協議により新たに必要とされる事業への助成を行う。

IV. 地球課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]

地球規模課題の解決のための研究や社会の取り組みの実情について、必要に応じて調査・資料収集等を行う。調査を実施する場合は、具体的テーマ・調査方法等は、専門家等を交えたプロジェクトチームによって検討する。

V. 国際相互理解の促進等に関する事業

[Promotion of International and Mutual Understanding]

地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠であり、本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行う。

1. 国際情報交流事業（継続事業）

[Global Information Exchange] (On-going Mission)

国連大学の教育事業は 30 有余年の歴史を持ち、この間多様な教育活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際 NGO・大学での研究活動など、緊急で地球規模の課題の解決を必要とする現場で活動している。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を欲している。本法人では、1999 年度以来、これらの世界各国で活躍する修了生たちと賛助会員、日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供している。

2. 日本文化体験事業（継続事業）

[Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

国連大学の大学院生や短期研修生並びに多様なレクチャーの参加者は世界各国から参集する。これら世界各国から日本にやってくる若い人々に日本文化や日本の社会についての理解を深め、国際相互理解の促進に資するための事業を行う。

(1) 歌舞伎鑑賞や歴史施設訪問等、日本文化に直接に接する機会を提供する。

(2) 日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直接に接する機会を提供する。

VI. 寄付金募金活動 [Fundraising Activities]

国連大学は国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関であり、日本に本部組織を置く唯一の国連機関である。しかしながら、国連大学の運営予算は、通常の国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けておらず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。このことに鑑み、本法人は、国連大学創設当初より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を得るための寄付金募金活動を実施してきた。国連大学への支援を十全に行うために、募金活動を積極的に行う。

1. 国連大学大学院「サステナビリティ学研究科」奨学支援募金活動（継続事業）

[Fundraising Activities for the Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes]

(On-going Mission)

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は 2014 年に従前の国連大学サステナビリティと平和研究所（東京）と高等研究所（横浜）が合併して国連大学本部ビル（東京）内にできた研究所である。その合併の際に両研究所が持っていた大学院プログラムも統合して「UNU-IAS 大学院プログラム サステナビリティ学研究科」となったものである。この大学院は創設（2010 年）から 10 年を経て、毎年の募集者数の増加が示すように受験者層の認知度も上がり、増加した修了生数の活動によって社会的認知度も高まってきた。

本法人は、この大学院の意義に鑑み、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生が我が国において安心して勉学に専念できるよう修学環境の確保に資する観点から、我が国経済界の協力を得つつ、「国連大学大学院サステナビリティ学研究科奨学助成賛助会員

（「jfScholarship for UNU 賛助会員」）」をスタートさせ(2010 年)、継続的な支援を行ってきた。他方、この寄付募金活動に対する募金額は我が国経済成長の低迷を反映して当初目標額には至っていなかった。そこで、第 49 回理事会(2019 年 11 月)において、募金活動の在り方を再構築する計画となっていたところ、2020 年春以降の急激な新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、募金活動再構築計画の進捗が滞ってしまった。2021 年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による社会状況の変化を十分に勘案しつつ、この募金活動の積極的な再構築計画を実施する。

2. 一般寄付金（継続事業） [General Donation] (On-going Mission)

国連大学の実施する教育研究プロジェクトへの助成及び本法人の行う広報・普及活動等への支援を目的に、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。なお、この一般寄付金においては、国連大学のサステナビリティ高等研究所の特定プロジェクトほか、寄付者の意思によって任意の事項を指定して寄付することができるものである。企業団体等をはじめ一般国民にも幅広く協力を呼びかける。また、遺贈や古本募金（チャリボン）、クラウドファンディングといった形態による募金活動にも引き続き注力する。

3. 一般賛助会費（継続事業） [Donation from Supporting Members] (On-going Mission)

この一般賛助会員制度による寄付金募金は、従来から実施しているものであるが、本法人の行う活動及び国連大学の教育研究活動全般を継続的・安定的に支援することを目的としている。賛助会員の募集にあたっては、企業団体等をはじめ一般国民からも幅広く参加を呼びかける。

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

本法人は、2010年1月に民法法人から内閣府による公益財団法人へ移行認定し、11年目を迎える。本法人の諸活動は、この10年において、公益目的事業と管理運営事業を峻別した事業展開は着実に実施されるようになり、公益法人活動は国連大学との円滑な協力体制の下、活性化している。

また、管理運営については、理事会、評議員会及び監事会議の他、国連大学への助成については国際問題専門家・法律家・ジャーナリストよりなる「助成諮問委員会」の、資産運用については資産運用の経験のある学識者による「資産運用委員会」の、それぞれ意見を徴して運営することとしており、各会議ならびに業務執行理事の権限等の役割分担を明確にし、円滑に推移しているところである。

他方、2008年のリーマンショック(2008年)以降、我が国の金融状況は低金利で推移し、特定資産の運用益が極めて小規模になったため、厳しい財務運営が続いている。

2021年の本法人の管理運営活動は、そのような状況を強く認識しつつ、丁寧に運営し、公益法人としての社会的責任を果たしていく。

その際、次の点について、前年度に引き続き特に意を用いる。

- (1) 公益法人における、区分会計処理の徹底
- (2) 公益法人における、公益目的保有財産管理の適正化
- (3) 基本財産及び特定基金等の資産運営の適正化

以上